

点字打つ
夢がほほえむ
目でみたい

—福祉標語入選作品から—

笠間市社協 宍戸支部だより

第122号

平成30年11月10日発行

発行 笠間市社協宍戸支部長 伊東 勝男
編集 宍戸支部広報委員会
印刷 大塩企画

たずねてみたら No.97



多くの
ボランティア活動を
経験して

会澤和美さん
南小泉2

—宍戸支部の活動はいつから—
平成7年に定年退職しました。その後には宍戸支部社協の会計を依頼されたのが始まりでした。
—地区懇談会については—
当時暴走族や非行青少年・不密者等が出はじめ、各地区・学校・家庭等で困り事が発生しました。宍戸支部には、青少年健全育成をめざす委員会があり、地域の方々と更生保護婦人会・学校の先生・社協関係機関の方々と共に地区懇談会に出席しました。社会で問題になっている映画を観て、その後児童とどう接するか等を真剣に話し合いをしました。今も続いている地区懇談会は、とてもよい行事と思っています。
—地域の高齢者との関わりは—
南小泉には、歴史のある薬師堂

よい地域づくりをめざして

地区懇談会

- ・講演テーマは
・悪質商法等消費者トラブル対策（消費生活センター）
・インターネット関連トラブル対策（消費生活センター）
・地域の犯罪情勢と防犯対策（笠間警察署生活安全課）
・夏の健康対策
（市保健センター）
・自主防災の基礎知識（市総務課）
・よく分かる介護保険介護が必要になった時は？（市高齢福祉課）
・こみの分別小型家電リサイクル



▲南小泉集落センター6/28

知ることが身を守る
日々変わる状況を把握しよう

地区懇談会が6月23日から7月14日迄、14会場を回り行われた。参加者は延べ360人。

クル（市環境保全課）で、この中から一つを各会場の行政区が選んだ
講話の一部

「消費生活センター」

通信販売・訪問販売等多くの商法があるが、契約は慎重に。その場で決めず家族等と相談。返品特

約を確認すること。
〈笠間警察署生活安全課〉
窃盗犯は無施錠の出入り口からの侵入が多く、必ず二重ロックを。キャッシュカードで現金を引き落とされた二重電話詐欺の発生有。5月頃から架空請求のハガキが送られてくるので注意を。
〈市保健センター〉
熱中症を防ぐには、暑さを避け喉の渇きを感じなくても、こまめな水分と塩分をとること。
〈市総務課〉
自然災害は進化していない。普段から防災の心構えをしておく。非常持ち出し袋の中身の確認を忘れない。
〈市高齢福祉課〉
身体が不自由になったとき、内容が違うので高齢福祉課に相談を。介護保険料の納め忘れのないように。
〈市環境保全課〉

〈市環境保全課〉

と観音堂があります。春夏秋冬にはお祭りがあり、お参りをしたあとは皆で茶会をします。高齢者でなければわからない歴史を伝えています。
—宍戸の子どもたちに—
子どもたちの元気な声を聞きながら、支部会館で「ものづくりわくわく体験」をしています。
新聞広告やストローを使用し、工夫して飾り物や役立つ物を作っています。まだまだ使えるのに「消費は美德」と捨てられる物が多い。これから生きて行く子どもたちに、物を大切に取扱い工夫して生活してもらいたい。
物が出来上がった時の喜びが美しい。その姿に引かれて今後この良い子たちと接して行きたい。

不燃ごみとして扱われていた小型家電（デジカメ・携帯電話等含む30品目）には、貴重な金属資源が含まれている。これらの処分は環境保全課へ直接持ち込みを。

宍戸小・友部中・友部高の先生方も出席した。各校共、一部に規範意識の低い生徒が見られるも、学習に運動に励んでいる。地域の方々には引き続き見守りを願いたい。等を話した。

その中で、友中は、3C（チャンス・チャレンジ・チェンジ）とチームワークを掲げ、自分を高め、まとまって和をつくり、相手を思いやる日を持つ。いじめはある。真剣になって子どもたちと相談しながら解決を見い出す。いじめに負けない子をつくり

手作りおもちゃにチャレンジ工夫して協力して

「小学生夏休みものづくりわくわく体験」が8月19日支部会館で行われた。参加者は子ども20人、保護者7人、社協関係者24人。
ペットボトルでかざぐるま、ストローとゴルフボールでゆらゆら荷が1枚や2枚のぼつくりげをつくった。
指導者は会澤和美さん。この日のために指導者研修を終えた女性部・こぶしの会メンバーは、穴あけやぐぎ打ちの手助けをしながらかざぐるまにやさしく教えた。
かざぐるまもゆらゆらも一人ではむずかしい。子どもたちは、となりの友達に手を借り真剣に取り組んだ。

かざぐるまにはキラキラ光るカラーテープを貼った。扇風機にかざすとすぐにまわりとてもきれいだ。地面に立てるとモグラ除けになると会澤さんが話した。
ゆらゆらには星形の紙にありがと



▲ゆらゆらを手に

たい。
友高は、昨年から始まった改革をさらに進め、TOMOBETOMOVE（躍動する友部高）を掲げ生徒と共に、地域に愛され信頼される学校を目指す。大田町、松山団地の会場で同席した友中・友高の校長が熱く話した。

講演後の懇談会では、通学路のことや宍戸駅に朝夕立ち生徒指導にあたる友高の先生、あいさつをする中高生が多くなった事等が話された。
又、市社協からは、フードバンク（家庭で余っている食品を、必要としている人へ届ける）についての話がいった。
各会場の参加者からは、生活に役立つ情報が得られてよかったと声が多く聞かれた。

うと書いてつり下げた。
ぼつくりげたをはくと体がきたえられると聞いて子どもたちは珍しそうに歩きまわった。
昼食はカレーライス。ラムネやアイスクリューム、スイカも食べた。午後は、なぞなぞとバルンアートを楽しんだ。帰りにはおみやげ袋を手に「来年も来ます」と笑顔で会館をあとにした。

防災意識高まる

自分たちの地域は自分たちで守る

10月10日、福祉推進員の研修があった。参加者は38人。

宇都宮市にある栃木県防災館と大谷資料館を訪ねた。

防災館では、災害への備えとして、大雨・煙・大風・地震の疑似体験が出来る。

私たちは最初に大シアターで災害対策の映画を鑑賞した。

体験コーナーでは、3班に分かれ、煙・大風・地震を体験した。

煙迷路は、誘導灯を頼りにハンカチを口に当て、体を低くして避難する。体を立てるとブザーがなる。白煙の中を落ち着いて進んだ。

大風は、樹木が根こそぎ倒れるという風速30m/sを体験した。

地震は、震度2から最大震度7までを体験。東日本大震災の激しい揺れを思い起こした。

大雨は、希望者10人がカッパ長靴装備で、大量に降る雨音で

第33回 GROUND GOLF 断トツ楠原さん



▲入賞者の皆さん

表彰者(敬称略)

男子の部

- 1位 楠原 千広 スコア33
- 2位 桑野 郭延 スコア40
- 3位 谷 貞夫 スコア40

(同スコアの場合年齢順)

女子の部

- 1位 中村みとり スコア37
- 2位 永山きみ子 スコア40
- 3位 山崎 えい スコア43

6月13日六戸地区高齢者グラウンドゴルフ大会が北山グラウンドで開かれた。参加選手は90人。

さわやかな青空となったものの前日の雨でグラウンドコンディションは上々とは言えず、ホールインワンは13人。

開会時間を30分遅らせた。

▲大雨を体験

周りの人の声が聞こえないほどの体験をした。体験者は「これに強い風が吹いたら恐ろしい」と話していた。

また、防災館職員は、阪神・淡路大震災では、生き埋めになったり建物に閉じ込められた人のうち、専門の救助隊に助けられたのは約2%、残りの98%は、自力や家族、隣人・友人等地域の人々によって救助された。と、自主防災組織の大切さを話した。

大谷資料館は地下30m広さ約2万㎡ある地下採掘跡で、ガイド付きで見学した。壁面には手掘り時代のつるはしの跡がある。坑内の平均気温は8℃前後。戦後は政府米の貯蔵庫であったとのこと。



まちの声・むらの声

共生とは



松山団地1 原田 功

「共生」とは、いろいろな意味がある。蟻とアリマキのような異種の生物の共存様式。

「ともいき」とも読まれ、近代浄土宗の学僧が創唱した仏教の言葉で、相寄り相助けること(相依相関)にこそあるのだとしている。

また、こうした関係を人間と環境との関係に当てはめ、人間は生態系の一部であり、人間に多大な恵みを与え、生存基盤でもある環境を保全していく重要な責務がある。との基本的認識に基づき、

快適な環境保全としていくために、環境と触れ合うことによって環境に対する的確な認識を育み、環境に配慮した行動を行い、環境からの恵みを適切に守り育てていくことが重要であろう。

これが「人と環境の共生する社会」づくりの根底となっていると考えられる。

人間社会とすべての動植物が、互いに助け合って生きていく事が仏の教えだと言われている。

昨今、各地に頻繁に起きた自然災害も、あるいは人類がより豊かな生活を求め、地下資源を乱獲

し、多くの二酸化炭素を排出して、地球の生態系ばかりか異常気象をひき起こしているのではないかと。

今こそ世界の人々が環境保全について真剣に考えるべきであり、何処かの大統領のようにパリ協定をサインしている時ではない。今や全世界が挙って環境保全に努める時であると思う。

地域社会に住む我々は、家族の次に大切な仲間だ。「見守り助け合い」を合言葉にせめて近隣住民同士仲良く楽しい日々を送りたいと願っている一人である。

小学生夏休み

ものづくり

8月19日実施

感想文より

1ねん おのぞは はるき

きょうは、かざぐるまとゆらゆらとげたをつくつてたのしかったです。かざぐるまがきれいにできました。おしえてくれてありがとうございます。おひるのかれいもおいしかったです。ごちそうさまでした。

2年 小のせ あおい

ふだんできないことや、やったこともないことがあって、たいへんだったけど、楽しかったです。いろいろおしえてくれて、ありがとうございました。カレーもおいしかったです。

3年 はら れいか

今日、わたしは2回目でした。

初めてのものづくり



松山団地1 米畑あゆみ

初めて、娘3人と一緒に「小学生夏休みものづくりわくわく体験」に参加しました。3時間で三つのものを作る盛りだくさんな

福祉バザー

さわやかな風が吹く5月26日、六戸小運動会にあわせて社協恒例のバザーが開催された。

今年も大勢の方が来場しバザー品を品定め購入。ビニール袋一杯に商品をつめ、ひきづって会計へ運ぶ方、じっくりと買い物を楽しむ方、など様々な光景が見られた。

バザー品の展示の仕方が、奥の品物が見やすいように品物間に通路をとり、みじかな所で手にとれる工夫がされた。

たくさんの方の協力があり、無事バザーも終了。売り上げは



▲会場に訪れた多くの皆さん

去年よりアップの305,251円。ありがとうございました。

最後には、おいしいカレーをこちそうになりながら、参加者の小学生や支部の方と話をしたり、楽しい時間を過ごすことができました。準備等も大変だったこととありますが、子どもたちのためにありがとうございました。

内容は、娘3人と一緒に「小学生夏休みものづくりわくわく体験」に参加しました。3時間で三つのものを作る盛りだくさんな

内容でした。初めにペットボトルのかざぐるまを作りました。見たことはあるものの作るのは初めてで、苦戦していると六戸支部の方やこぶしの会の皆さんが、とても丁寧に教えてくださり、完成させることができました。できあがるまで扇風機の風にあて、「回った!回った!」と歓声をあげる子どもたちの姿は微笑ましいものでした。次にストローとゴルフボールでゆらゆらを作ったり、細かくカットされた角材を組み立ててぱっくりを作りました。できあがるとすぐにのって遊び、楽しんでいました。大人の私もいつい夢中になって作っていました。